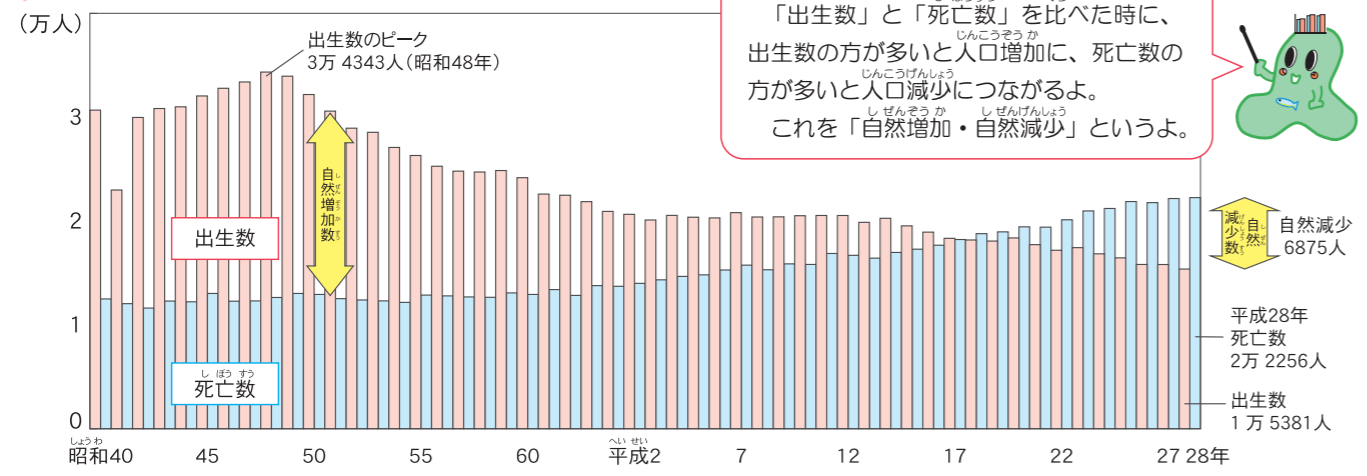




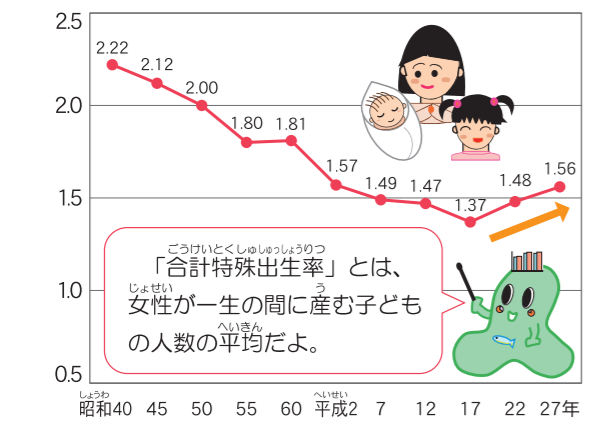
平成28年は死亡数が出生数を約6900人上回り自然減少が拡大
 社会動態では、若い世代を中心に転出超過が続いている

合計特殊出生率が回復傾向にあっても出生数が増加しないのは、母となる女性の減少のため。
 転入と転出の差を比べた社会動態をみると、若い世代で職業や学業による転出超過が続く。

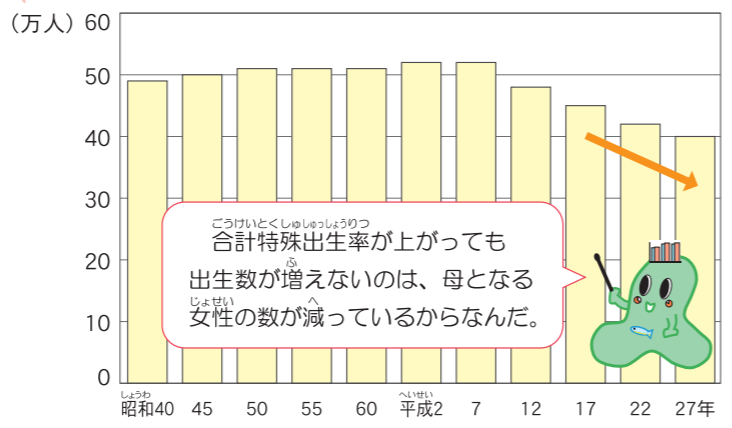
1 出生数と死亡数のうっすり変わり (岐阜県)



2 合計特殊出生率 (岐阜県)

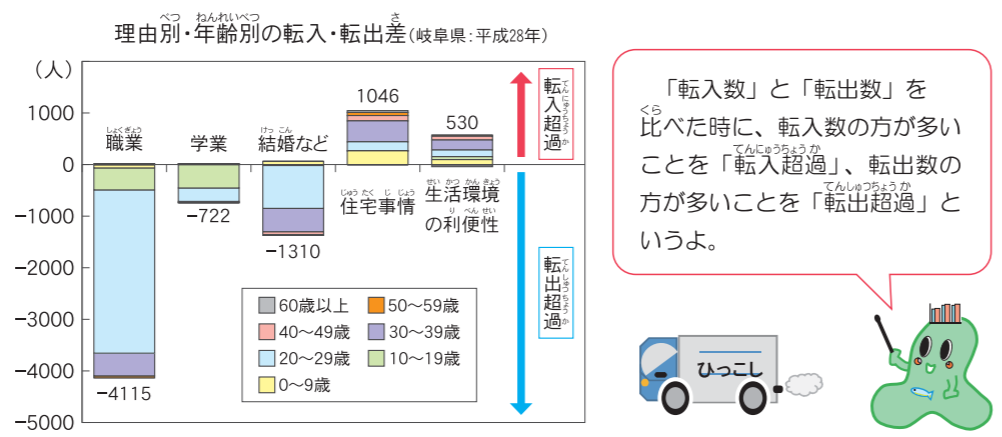


3 15~49歳の女性の数 (岐阜県)



4 転出超過によって約2千人の人口減少 (平成28年)

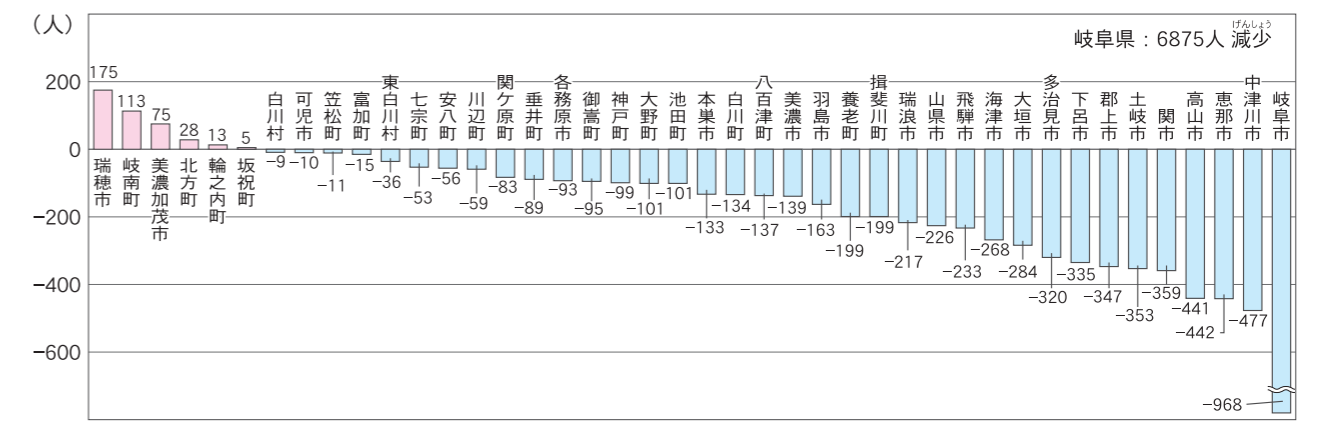
平成28年の転出超過は、2243人であったが、理由別にみると、20歳代を中心とした若い世代で、「職業」「学業」「結婚など」の理由が目立つ。一方、「住宅事情」や「生活環境の利便性」では、転入超過となった。



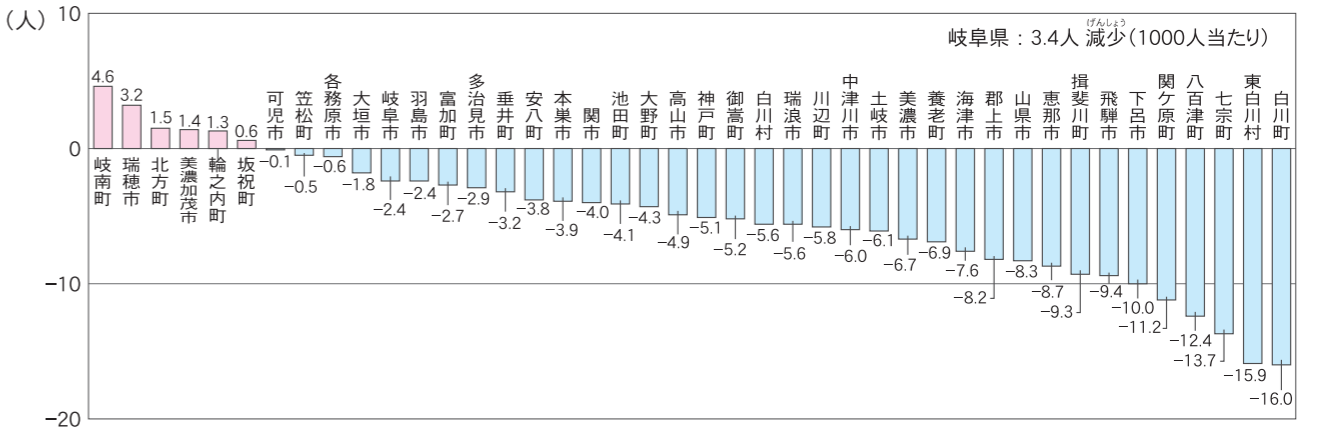
わたしの市町村の「人口の動き」

- ステップ STEP1 あなたの市町村の自然増減は何人？
 STEP2 あなたの市町村の人口1000人当たりの自然増減は何人？
 STEP3 あなたの市町村の社会増減は何人？

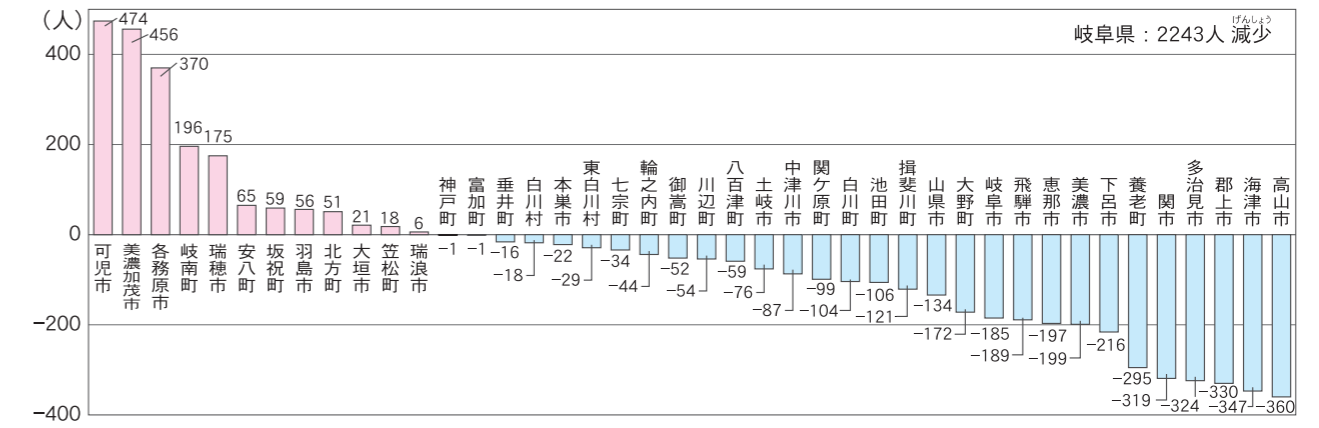
5 市町村別の自然増減 (出生数-死亡数) (増加数の多い順:平成28年)



6 人口1000人当たりの自然増減 (平成28年の自然増減÷平成27年の人口(千人)) (増加数の多い順)



7 市町村別の社会増減 (増加数の多い順:平成28年)



(出典) グラフ1、4~7:「岐阜県人口動態統計調査」(各年の前年の10月1日から翌年の9月30日までの1年間の数) グラフ2:厚生労働省「人口動態統計」 グラフ3:総務省「国勢調査」(各年10月1日現在)